

とみらいテラス 雑感

TOMIRAI TERRACE

とみらいテラス館長が読書に関する雑多な感想を書き綴ります。今回は得意分野をつらつらと…？

とみらいテラス雑感 vol.3

こだわりなのかな（その1）

前回、私のマニア的素養としての「こだわり」みたいなものについて、いくつか触れましたが、今回はそこをちょっとだけ深掘して、専門分野でのこだわりについてのお話になります。

私は学生時代には、「日本考古学の先土器時代（旧石器時代）」を専門として学んでいました。この専門分野についての私的な「こだわり」がすでに表に出てしまっていますが、現在「先土器時代」の時代呼称を用いる研究者は少数となり、教科書は勿論、あらゆる書籍でも見かけなくなっています。

時代呼称としては「旧石器時代」の方がピンとくる方が多いとは思いますが、ほぼ同じ時代を表す呼称として「岩宿時代」など、未だに多くの呼称が乱立しているのも事実なんですけどね。

そんな私の歴史感の「こだわり」のひとつが、『日本の歴史を学ぶ際に日本国内の歴史的事象のみを見ていると偏ったものになる。』というものです。

学校で学ぶ歴史は、「日本史」・「世界史」のように、別物として扱われるケースがほとんどで、多くの方々がそれぞれを個別的に学んできたかと思います。

現代は、「グローバル」な視点で物事を考えることが推奨されていますが、それは「歴史」を振り返るときにも必要だと思うのです。特に古い時代は、今ほど交通の便も良くなく、行動できる範囲も狭いかもかもしれませんが、人々は様々な形で他地域との交流をもっていたのも事実です。

私の専門分野で言えば、北海道の黒曜石が遠くシベリアでも石器として利用されていたりしますし、稲作だって大陸から伝わってきたものですからね。

私は、高校生の頃に歴史年表で日本の出来事と世界の出来事が併記しているものを見て、この二つが交わるのは「近代」という印象を強く持っていました。しかしながら、江戸時代は鎖国政策をとっていましたが、外国との交流が無かった訳ではありませんし、遣隋使・遣唐使だって外国との交流の歴史ですよ
ね・・・

それ以外にも多くの交流によって、日本という国が現在に至っていることが理解できる倉山満先生の『並べて学べば面白すぎる世界史と日本史』は、中学生や高校生の皆さんに手にして欲しい一冊ですし、勿論大人の歴史好きの方々にも一読していただき、『歴史は面白い！』と感じていただけたら幸いです。

吉林昌寿

とみらいテラス雑感 vol.4

こだわりなのかな（その2）

前回、『日本の歴史を学ぶ際に日本国内の歴史的事象のみを見ていると偏ったものになる。』という私の専門分野に関わる「こだわり」について触れましたが、その第2弾となります。

私の学生時代の専門分野は「先土器時代（旧石器時代）」であることは示しましたが、その中でも『A T（始良 T n 火山灰）降灰以前の石器群』を対象にしています。

『A T（始良 T n 火山灰）』とは、今から約2万9千年～2万6千年前に破壊的噴火を起こした『始良カルデラ』によってもたらされた火山灰であり、日本列島の大半に降り積もったことから、地質学でいう『鍵層』のひとつにもなっています。

卒業論文はあくまでも『A T（始良 T n 火山灰）降灰以前の石器群』であり、『A T（始良 T n 火山灰）』はその時期的な指標としてのみの存在に過ぎなかったのですが、私の「こだわり」癖のため、卒論の大事な数カ月をこの火山灰の先行研究の把握に費やしてしまったのです。地質学を専攻しているならまだしも、『A T（始良 T n 火山灰）』が丹沢山系で最初に発見されたため、T n（丹沢の略）が名称に付いているだとか、その供給地（火山）が長年不明で、ようやく『始良カルデラ』供給源であったことが論じられた論文など、卒論の主要部分には何ら関係のないこれらの文献目録を作成し、収集していたのは紛れもなく「こだわり」癖なんでしょうね。

まあ、今から思えばこんな「こだわり」に時間をかけられたのも、学生時代ならではものなんでしょう。その時の足掛かりとして参考にしたのが、町田洋先生の『火山灰は語る』だった記憶があるので、興味のある方は是非お手に取っていただけたらと思います。

ご存じの方もいるとは思いますが、『始良カルデラ』は現在の鹿児島県、桜島が浮かぶ錦江湾の全体が火口だと言われています。鹿児島県の地質学的特徴とも言える「シラス台地」もこの『始良カルデラ』破壊的噴火によって生じた火砕流堆積であり、その先端は宮崎県にも達しているそうです。

火砕流というものに馴染みのなかった私は、平成3年の「雲仙普賢岳」で発生した人的被害の生じた火砕流のニュース映像を見て驚愕したのを思い出します。火山大国である日本列島では、常にその災害とは隣り合わせだということを知った瞬間でもありました。